

「ふるさと教育の推進と共生の精神に満ちたまちづくり」

学校名 更別村立更別小学校

校長 水野豊昭

担当者 阿部英一

1. 活動の趣旨

本校のESDの活動目的は、地域に根ざした教育である。その中で、主体的に参加しようとする態度、他者と協力する態度、つながりを尊重する態度を育てることを主なねらいとして取り組んでいる。

2. 活動計画

学校教育目標

○考えて努力する子 ○仲よく助けあう子 ○進んではたらく子 ○明るく元気な子

ESDで育みたい力

○批判的に考える力 ○未来像を予測して計画を立てる力 ○他者と協力する力
○コミュニケーションを行う力 ○多面的、総合的に考える力 ○進んで参加する力
○つながりを尊重する力

本校のESDに関わる2つの柱と校内研修テーマ

柱1 地域の自然や産業に学び、人々とのふれ合いや体験活動などを通して、ふるさと更別を愛し、ふるさとに誇りを持つ子どもを育てる。

柱2 本校における教科や総合的な学習の時間など様々な活動（人権・平和・環境・福祉・産業・伝統・情報・文化・地域貢献）の継続と充実を通して「持続可能な社会」「郷土の未来」を担う子ども達を育てていく。

研修テーマ「主体的に学ぼうとする子どもの育成」…算数科を中心に全教育活動で

○生活・総合的な学習の時間とESD

農園活動

人と関わる活動

環境・福祉等の活動



各教科横断的な捉え

3. 活動事例

(1) 地域の自然や産業に学び、人々とのふれ合いや体験活動などを通して、ふるさと更別を愛し、ふるさとに誇りを持つ子どもを育てる活動

①農園活動

農業に従事するPTAの協力をいただき、校舎南側の畑で、地域の主産業である農作物の栽培を行う。児童が育てた野菜を2学期に収穫祭で試食した。

②JA 更別青年部との交流

JA 更別青年部の協力をいただき、5年生が大豆の栽培に取り組んだ。5月に種まきを行い、9月に枝豆の収穫・試食を行った。10月に大豆を収穫し、2月に豆腐作りを行った。

③幼・保・小・中・高の連携

年3回、村内の幼稚園・保育園児と1年生の交流を行った。今年度は更別農業高校生徒と2年生児童と栽培活動や食育指導での交流を行った。

④ふれあい郵便

異世代間での交流を目的に、村内在住の80歳以上のお年寄りの方々を対象に、全児童で手紙を書いた。たくさんの方々からお礼の返事をいただいている。

⑤本の読み聞かせ

地域の読み聞かせボランティアグループ「おはなしを楽しむ会おひさま」の皆さんが、月に1回休み時間に来校し、児童に本の読み聞かせをしてくださっている。

(2) 本校における教科や総合的な学習の時間など様々な活動（人権・平和・環境・福祉・産業・伝統・情報・文化・地域貢献）の継続と充実を通して「持続可能な社会」「郷土の未来」を担う子ども達を育む活動

①ふるさと学習

今年度は、帯広百年記念館での見学学習やアイヌ民族文化財団と連携した「ムックリづくり」を行い、アイヌの方々の歴史や文化について学んだ。学習内容を新聞などにまとめ全校児童や保護者に発信した。

②福祉の学習

本校では、村内の関係機関と連携した福祉の学習を行っている。今年度は、社会福祉協議会と連携し「認知症」に関する学習を行った。授業を受けた本校4年生児童は、全員が認知症サポーターとしての認定を受けた。2学期には老人ホームを訪問し、交流も行った。



③いじめをなくそう宣言

本校では児童会が中心となり、平成19年に「いじめをなくそう宣言」を制定している。全校朝会で全児童が朗読している。

④緑の募金・赤い羽根募金・ユニセフ募金リサイクル活動

児童会代表委員会が中心となって、「緑の募金」「赤い羽根募金」「ユニセフ募金」に取り組んだ。集まった募金は村内の関係機関に寄贈した。また、全校の取り組みとして、牛乳パックのリサイクルやゴミの分別に積極的に取り組んでいる。

4. 成果と課題

成果 ○地域との交流が深まり、ふるさと更別が好きだと感じる児童が増えた。

○地域（社会）の一員として活動しようとする意識が育ちつつある。

課題 ○現在取り組んでいる教育活動を整理し、ESDの視点をいかした教育課程を編成していく。（ふるさと学習の全体計画作成等）